

# 糸満市立学校 感染防止対策ガイドライン 2022.6.1 Ver.6 【糸満市教育委員会】

本ガイドラインは、文部科学省や沖縄県の指針等に基づき、学校の感染防止対策に関する具体的な事項について学校の参考となるように作成したものです。以下の内容を参考に、学校規模や校舎の形状、児童生徒の発達段階等を考慮しながら各学校の実情に合わせて感染防止対策に努めていただきますようお願いいたします。尚、今後も新たな情報や知見、感染状況にあわせ適宜見直しを行うことをご理解下さい。

※ ガイドラインの対策内容は、子供の健やかな学びを保証していく観点から、各学校で学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続していくため、修正しました。

## なくそう！ “差別・偏見”

“病気”“不安”“差別”という「3つの感染症」の拡大をとめるために自分には今何ができるのか、不安を感じたらどうすればいいのか、感染症となった人・関わる人とのように接するべきなのかを考えよう。

|                  |   |   |   |
|------------------|---|---|---|
| 登校前              | 【持ち物】   | ハンカチ・ティッシュ・マスク(予備も含む)・マスクを置くためのビニールや布、水筒等。<br>※個人の手指用消毒液や除菌シート等の持参。(保護者が希望した場合、学校と相談した上で個人で管理することを条件に許可する)  |    |
|                  | 【健康観察】  | 【レベル1】下記の①、【レベル2・3】下記の①+②<br>①朝晩の体温・体調をチェック、健康観察表に記入。(保護者のサイン等) ⇒ 発熱等の風邪症状がある場合等には自宅療養し、医療機関を受診する。<br>②同居の家族に発熱等の風邪症状がないかどうかの確認。⇒ 同居の家族に風邪症状が見られる場合も登校せず自宅で健康観察をする。   |   |
| 学校生活             | 【登校】  | ●登校時、健康観察を必ず行う。(検温、風邪症状、同居家族の状況の確認)<br>《健康観察表が未記入・忘れた場合》⇒ A=健康状態に問題なし ⇒ 教室へ B=健康状態が気になる ⇒ 保護者に連絡し自宅療養、医療機関の受診を促す<br>※健康観察を行う場所は、校門、校舎入口、教室に入る前、教室内等、学校によって異なりますが、密集が起こらないようする。  |   |
|                  | 【手洗い】   | 【レベル1・2】以下の場面で意識して行う。(30秒程度かけ、水と石けんで丁寧に洗う) ◆手を拭くタオルやハンカチ等は共用しない。<br>①登校後 ②外から教室に入るとき ③咳やくしゃみ・鼻をかんだとき ④給食(昼食)の前後 ⑤掃除の後 ⑥トイレの後<br>【レベル3】上記の場面 + 休み時間ごと<br>※手指で目、鼻、口をできるだけ触らないなど接触感染を理解し、必要と判断した場合は手洗いを行う。   |    |
|                  | 【咳エチケット】  | 咳・くしゃみをする際 ⇒ マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、肘の内側等を使って、口や鼻をおさえる。<br>※基本的には、マスクを着用していれば、咳エチケットを守ることができる。  |   |
|                  | 【3密の回避】   | ①【エアコン未使用時】常時2方向の窓を同時に開ける。但し、窓のない部屋は常時入り口を開けておくなど十分に換気する。(扇風機等を利用して換気を行うなど空気の流れをつくる)<br>②【エアコン使用時や気温が低い日・風が強い日等】休み時間毎に窓(2方向の窓を全開)を開け、10分間程度換気を行う。<br>※授業中も2方向10cm程度窓を開放し、空気の流れをつくるのが望ましい。<br>③【冬季における換気】気候上可能な限り、常時喚起に努める。(難しい場合には、少なくとも休み時間ごとに窓を全開にする)<br>また、室温低下による健康被害の防止のため、保温・防寒目的の衣類の着用について柔軟に対応する。<br>④体育館のような広く天井の高い場所も換気に努める。<br>※教職員及び児童生徒が人の密度が高くならないように互いに意識し、必要があると判断した場合は様々な方法で換気を行う。 |   |
|                  | 【「密閉」の回避(換気の徹底)】  |   |   |
|                  | 【「密集」の回避(身体的距離の確保)】   | ①教室では、【レベル3】できるだけ2m程度(最低1m)を目安に様々な活動で友だちや先生とできるだけ間隔を取る。<br>【レベル1・2】1mを目安に学級内で最大限の間隔を取る。<br>(間隔(身体的距離)が十分とれないときはマスクを着用することを心がける)<br>※感染拡大地域(レベル2~3)の実態に応じて、身体的距離の確保を優先して分散登校や時差登校の導入等の工夫を行う。<br>②間隔(身体的距離)が十分とれない場合は、全校集会及び学年集会等は行わない。(間隔がとれて実施する場合は短い時間で行う)   |  |
|                  | 【「密接」の場面への対応(マスク・フェイスシールド・マウスシールドの使用)】  | ①身体的距離が十分とれないときは着用する。<br>※マスクを着用する必要がない場合 → ・十分な身体的距離が確保できる場合 ・熱中症などの健康被害が発生するおそれがあると判断した場合 ・野外での活動や登下校中(会話を行わない場合) ・体育の授業や運動部活動の活動中<br>②マスクなしでフェイスシールド・マウスシールドを使用する場合には、身体的距離をとる。  |   |
|                  | 【トイレ使用】   | ①日頃から、トイレ内はよく換気する。<br>②フタがあるトイレの場合は、フタを閉めて水を流す。<br>※トイレの後の手洗いは30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗う。(手を拭くタオルやハンカチ等は共用しない)  |   |
|                  | 【給食】  | ◆手洗いは30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗う。<br>①手洗いを確実に行ったか等、当番を決め全員の食事の前後の手洗いを徹底する。<br>②会食にあたっては、机を向かい合わせにしない。また、大声での会話を控える。<br>③会食後の歓談時には必ずマスクを着用する。   |  |
|                  | 【清掃】  | ①清掃は十分な換気やマスクの着用を心がける。(暑さで息苦しいと感じた時は距離をとってマスクをはずす)<br>②清掃にあたっては、消毒を兼ねるなど工夫して行う。(消毒は教職員を中心に、または教職員の指導のもと行う)<br>※ドアノブ、手すり、スイッチ等、みんなが手を触れる箇所及び共用物。(1日1回程度)<br>※清掃後の手洗いは30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗う。(手を拭くタオルやハンカチ等は共用しない)  |   |
| 【授業】             | 【レベル3】感染リスクの高い教科活動は行わない。<br>【レベル2】可能な限り感染対策を行った上で、リスクの低い活動から徐々に実施することを検討する。(下記の★が検討する活動)<br>全教科⇒「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」「近距離で一斉に大きな声で話す活動」★<br>理科⇒「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」<br>図画工作、美術⇒「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」<br>音楽⇒「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」★<br>技術・家庭⇒「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」★<br>保健体育⇒「児童生徒が密集する運動」「近距離で組み合ったり接触したりする運動」★<br>(十分な身体的距離がとれない状況で、息苦しさや熱中症のリスクがない場合、マスクの着用をすすめる)<br>※プールにおいては、水中感染のリスクは低いと指摘されているが、密集・密接の場面が想定されるため、様々な感染リスクへの対策が不十分な場合はプールの授業は実施しない。<br>【レベル1】上記の★の活動について、換気、身体的距離の確保や手洗い等の感染対策を行った上で実施することを検討する。 |    |   |
| 【部活動など(スポーツ少年団)】 | 【緊急事態宣言時】県や市の感染者発生状況を確認しながら総合的に判断していく。<br>【レベル3】可能な限り感染及びその拡大のリスクを低減させながら、なるべく個人での活動とし、少人数で実施する場合は十分な距離を空けての活動を行う。密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声したりする活動は行わない。<br>【レベル2②】可能な限り感染対策を行った上で、リスクの低い活動から徐々に実施する。密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声したりする活動の実施は検討する。<br>【レベル1・2①】可能な限り感染対策を行った上で通常通りの活動。1mを目安に、活動場所内で最大限の間隔をとる。   |   |   |
| 【熱中症対策】          | ①のどが渇かなくても定期的に水分補給をする。授業中の水分補給も可。(但し、教職員と児童生徒でルールやマナーの確認を行う)<br>②エアコンのある教室等を中心に活動する。(換気は忘れずに)<br>③気温・湿度や暑さ指数が高い日は、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるためマスクは外す。<br>④毎日の家庭や学校における健康観察は、熱中症予防においても有効。  |    |   |
| 【発熱や風邪症状を確認した場合】 | ①発熱者等の待機場所の確保。(保健室以外の別室を設ける又は保健室内をついたて等で区切る)<br>②当該児童生徒等を安全に帰宅させる。(症状がなくなるまでは自宅で休養するよう指導する)<br>※早退させるまで必ず職員が付き添う。早退後は、換気を十分にいき、消毒等の感染予防策を行う。  |   |   |
| 放課後              | 【消毒】  | ドアノブ、手すり、スイッチ等、みんなが手を触れる箇所及び共用物。(1日1回程度) ※清掃時間を活用して実施することも可。  |   |
|                  | 【下校】  | ①校門や玄関口等での密集が起こらないようにする。<br>②友達や一般の人と十分な身体的距離を確保できない場合はマスク着用をすすめる。但し暑さで息苦しいと感じた時は我慢しない。   |  |
| 家庭               | 【家に帰ったら】  | ①家に帰ったら、すぐに手洗いを行う。30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗う。(手を拭くタオルやハンカチ等は共用しない)<br>②人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える。または、シャワーを浴びる。<br>③高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重に行う。④不要不急な外出を控える。  |   |
| その他              | 【連絡体制】  | ①感染防止について不安や悩み・相談等 ⇒ 市教育委員会(840-8165)<br>②発熱・風邪症状等 ⇒ 新型コロナウイルス感染症相談窓口(コールセンター)(866-2129)、沖縄県南部保健所(889-6591)<br>③学校のホームページの活用した情報提供の整備。  |   |

【参考】 ○学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2022.4.1 Ver.8) ○新型コロナウイルス感染症等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を踏まえた小学校、中学校及び高等学校における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(通知) 2文科初第1462号 令和3年1月8日 ○県立学校における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン(令和3年11月12日版 Ver.4) ○県立学校における地域の感染レベルに応じた感染症対策について ○県立学校における地域の感染レベル別の感染症対策 別紙1-1(2022.1.5時点) ○県立学校における地域の感染レベル別の感染症対策(保健体育・運動部活動) 別紙1-2(2022.1.5時点) ○【オミクロン株流行下】同居家族に感染者が発生した者の対応について 別紙2 ○【オミクロン株流行下】同居家族以外の感染者と接触した者の対応について 別紙3-2